

# ひかり 0さいの子どもたちの探究

すみれ保育園  
2023



福生市の探究活動



探究の文脈と環境

シェードを通して差し込む木漏れ日  
すみれぐみ0歳クラス

すみれ保育園の園舎にはひかりがたくさん入るように設計されています。ホールは吹き抜けになっており、大きく一面に開かれた窓からは福生市の大きな空がよく見えます。0歳クラスは2面に大きな窓があり、角部屋ということもありとても明るく心地よい場所です。子どもたちは室内でも太陽の光や天気を感じて過ごすことができます。加えて、朝のひかり、夕方のひかりが部屋に映し出す表情はとても豊かなお部屋です。

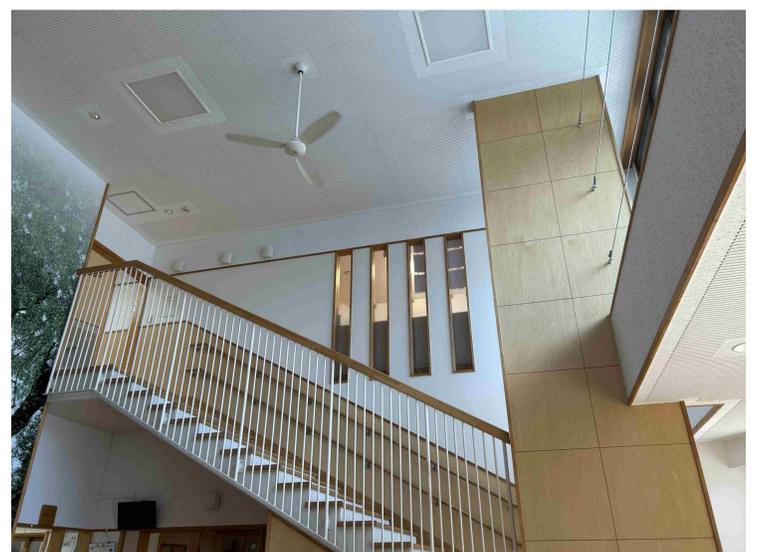
「クラス環境をよりよくしていきたい」との先生方からの希望もあり、まず環境について考えてみました。月齢差がある0歳の子どもたちは、寝ている時間も長い3ヶ月の子、はいはいする子、走る子と、子どもたちの興味関心も異なり、動きもさまざま、目線もさまざまです。

## <ひかりの文脈から環境構成の提案>

- ・ひかりを和らげ、影を映し出す効果も見込み、白い布で天蓋をつくる。
- ・ひかりの反射や透過、屈折散乱を受け止めるあるいは反射するような、いろいろな種類の白い紙などの素材や、白いマットを環境の一部に置く。
- ・カラーマットを多用せずに木の風合いが素敵なフローリングが生きるようにする。
- ・窓辺にポトスやアイビーなど、つるのあるグリーンを置く。
- ・ウォーターブロックなどの、色が透過し、色が重なる効果を生む玩具を窓の近くに置く。

など

ひかりは強く明るいけれど反面とてもデリケートなので、部屋の中がカラフルすぎると実はひかりの効果が見えにくくなります。ひかりとの親和性を考えて色味の調整を行うことで、ひかりの文脈を環境構成できると同時に、「心地よさ」と「美しさ」がある環境を目指すことが可能なのではないかと考えました。





ひかりとみず

夏。  
水面にうつるキラキラに気づき、手を伸ばし水面に触れ、ふと「このキラキラはどこからきているんだろう」というような仕草でひかりの方向を見上げ、水面と比べるように観察する姿、ひかりのラインができた水面に手を伸ばす姿、ひさしにうつる葉っぱの影を指差す姿がありました。子どもたちは、ひかりを探してひかりを知ろうとしているのではないのでしょうか。  
子どもたちの姿を手がかりに、まずは、ひかりと水の環境を準備しました。

ひかりってなんだろう

ひかりはどこから来るのだろう

くもり空の日。太陽のひかりはすみれぐみのベランダに届いています。水を張った透明の入れ物はまるで鏡のようにひかりを取り込み、まわりの景色を映し出します。よく見てみると、見る角度によって、映り込むものが異なります。水面はとても美しく、「あそぼう」と語りかけているようです。子どもたちは、どのような姿を見せてくれるのでしょうか。



メイちゃんは、じっと水の中を見つめています。ゆっくり、ゆっくり見えています。先生が水面を揺らすと、目を丸くしてじっと見ます。そして、そっと水面に手を入れます。指で、指先で、まるで何かを確かめるかのようにゆっくりと……。水面の揺れを目でも確かめています。メイちゃんの手ひらから、しずくが落ちました。じっと見つめてから、そっとしずくを触ります。何度も何度もくりかえすその仕草から、メイちゃんは自分の手と目を使い、よく考えていることが伝わってきます。

メイ 9ヶ月



水面のひかりと水の音



かなちゃんの手や指が奏でる水の音が、いろんな響きを持ち聞こえてきます。それと同時に、水面はひかりを反射して様々な揺らぎを見せてくれます。かなちゃんは、指先を動かし水面を揺らした後、水面から手をすっと離し、じっと水面を見つめています。水面が静まると、また手を伸ばして触れます。指先から手のひらへ、腕全体を使ってと、どんどん大胆に触れていきます。かなちゃん表情はどんどん晴れやかになり、楽しんでいることがわかります。よもぎちゃんも手を水面にそっと手を伸ばします。2人の指先はとてもデリケートに水面を揺らし、ひかりを反射させていきます。

かな 10ヶ月 よもぎ 8ヶ月

# 一人ひとりとみんな

かなちゃんが水に触れると、水の中にいくつもの気泡ができて、ゆらゆらと揺れ、気泡がひかりを受けて輝きます。

ゆうたくんとロジェヤくんは遠くから水槽の中をじっと見えています。

えまちゃんは水の上と、水の中を交互に観察しています。水面にできる揺らぎに何度も手を伸ばします。先生がペットボトルを水の中に沈め、気泡をつくると、ゆうたくんは驚いた表情と同時にパッと笑顔になりました。

ペットボトルから出てくる水に、えまちゃんは手を伸ばし、水の勢いを手で確かめているようにも見えます。

よもぎちゃんは、ひかりと水の中の泡をじっと見えています。ふと、スタンドライトの光に気がつき、そっと手を伸ばしていきます。時々、後ろにいる先生の存在を確かめながらよもぎちゃんのペースで観察しています。

ロジェヤくんは、先生の手で自分の手を重ねて、光の揺らぎ、しずくを一緒に試します。その手は「一緒に」と言っているようです。

いつの間にか、水槽の周りにはみんなが集まってきていました。

一人ひとりの興味は異なり、好奇心に動かされる行動や姿はみんな違います。手で触れた時の感触、目で見る驚き、音による刺激。出会い方も関わり方も一人ひとり。でも、みんなでいるこの空間は、みんなのもの。



じっくりゆっくり、遠くから見ていたゆうたくん。とても時間をかけて近くまで来ましたが、自分から水面に手を伸ばしました。ゆうたくんの好奇心はペットボトルを沈めた時の音。(ぶくぶくぶく・・・) この音と大きな泡が水面に溢れてくるとパッと笑顔が広がります。ぶくぶくぶく、満面の笑顔。この笑顔が見たくて、何度も何度もぶくぶくぶく・・・しばらくすると、ペットボトルから出てくるしずくに気持ちが動きます。ペットボトルが醸し出す水の動きに手を伸ばしつかもうとしています。誰もいなくなっても、その探究は続きます。ペットボトルをゆうたくんに渡すと、水の中に沈めようとします。浮力でプクッと浮いてきますが、何度も試みます。20分くらい集中して試していたでしょうか。音、動き、感触、浮力、水の揺らぎ、泡・・・ゆうたくんを魅了したことはなんでしょうか。答えはわかりませんが、ゆうたくんの手の動きは何かを実験している手であることは確かです。

ゆうた 1歳2ヶ月



夏の間、たくさん水と触れ合ってきた子どもたちは、水ととても「なかよし」でした。ひかりの中で、水はその姿をよりよく見せてくれました。手の動きに合わせて変化する水の姿に、子どもは何かを発見し、何かを探そうとしていました。

0歳の子どもたちは言語としての言葉はまだ話していません。しかし、好奇心に動かされるその手や目や姿は、たくさんおしゃべりしています。

振り返りの担任の先生の言葉より

「今日はちょっと見ていることを大切にしようと思って言葉を少なくして関わった。そのことでじっくり見られた。子どもの言葉が聞こえたような気がした。ちょっと引いてみる、気持ちは参加しているが、一歩引いてみるということ。」

「子どもたちが語っていること、語ろうとしていることを見逃さないように、この一瞬一瞬を大切にしたいという気持ちを、みんなで共有することができました。」



ひかりと白い紙



環境設定

### ひかりと白い紙。

ここまでの活動の中で、子どもたちは物や事象に自ら関わる力があることを再確認しました。そこで、自分の関わり方でいくつもの表情を見せてくれる可能性がある和紙を中心とした白い紙を素材に選びました。

和紙は、日本の伝統文化で、自然由来のため、ひかりとともにとても親和性があります。

和紙の原料は雁皮（がんび）・楮（こうぞ）・三桮（みつまた）などの木の皮で、種類により和紙の風合や手触り、強さ、硬さ、触った時の「音」も異なります。

先生方が子どもたちのために丁寧に選んできた和紙を使っています。

ひかりはライトテーブルとOHP、そしてスポットライトを使いました。

ひかりのあたたかさや不思議さ、ひかりと白い紙が醸し出す柔らかさがお部屋の一角を包み込みます。

子どもたちが自ら興味を示して「自分で」関わるように支えていきたいと計画しました。

関わり方はそれぞれでいい。ゆっくりと興味を示す子もいるでしょう、すぐに触りたいと近づいてくる子もいるでしょう。一人ひとりのリズムと感覚を大切に、私たちもゆっくりと見守り支えたいと思います。

### 全身で考える



じっくりと様子を見てから、ひかりの中へかなとくんは、慎重に、でも大胆に、一つひとつ見つけたものにアプローチしていきます。触って、倒して、叩いて、くるまって、伸ばして。

真剣な表情で、一つひとつよく考えながら試していきます。

ひかりと白い紙との出会い。

その、大胆に身体全身を使って探究する姿に見惚れます。

かなとくんの動きが一瞬止まりました。何かを見つけたようです。

影？ひかり？自分の手と、手の先をじっと見つめています。

そして、紙をなぞるような仕草でそっと、ゆっくりと、何かを確かめていました。

かなと 1歳



ゆずさちゃんは、先生と一緒にいい日。先生と一緒にだと安心して紙に触ります。先生の膝を自分の砦にして、近くの紙をつかみます。興味はある、でも、ちょっとドキドキすることも、先生の膝でならできる。先生は言葉や手を出しすぎずに、ゆずさちゃんの指先を観察しながらそっと紙を支えます。

ゆずさ 11ヶ月



ライトテーブルに興味津々のロジェヤくん、テーブルの上の紙を下に落としていきます。それをじっと見ていたゆずさちゃんが柔らかい紙を指でちぎり、そっとロジェヤくんへと差し出します。ロジェヤくんはニコッと笑って受け取りました。素材を介して、子どもたち同士の気持ちと姿が繋がります。

ロジェヤ 1歳2ヶ月



ひかりと葉っぱ

ひかりと葉っぱ。

秋が深まり、太陽の光を受けて色づき始めた秋の葉っぱ。

自然の循環の中でこのような美しい色どりを魅せる葉っぱは、太陽のひかりに大いに影響を受けていると言えるでしょう。

夏の木漏れ日にを指差した子どもの姿から、子どもたちが目を向けているひかりと葉っぱの関係性を見ていきたいと、0歳の先生方がたくさんの美しい葉っぱを集めてくれました。

ベランダに並べた葉っぱは、晩秋の光を受けて美しく私たちを魅了します。秋の日差しは穏やかで、少し斜めからベランダに光を落としていました。葉っぱの色合いと影のコントラストに審美的な感覚を受け取ります。



ここまでの活動を振り返っても、0歳の子どもたちは、集中する力も、自ら向かう力も、驚きや好奇心を持って試す力も、自分の手や心や頭、身体全体を使って探究する力も持っていることがわかりました。

ひかりと色とりどりの葉っぱと出会った時に、子どもたちの手や視線はどのような姿を見せ、何を語り始めるのでしょうか。

1つの葉っぱをじっくりと見ていくえまちゃん。黄色く色づいた大きな楓の葉っぱの、表をじっくり見て、裏側もじっくり見て、また表に戻して……。ふと、大きな葉っぱの中に顔をうずめました。目を閉じてしばらくそのままじっとしています。楓の葉っぱの匂いに気づき、その匂いを嗅いでいるのでしょうか。その後、静かに顔を上げて、今度は枝の先に触れていきます。両手で触れて、その後右手の親指で触ります。何度も何度も繰り返して触っています。1枚の楓の葉っぱを、どの側面からも探究するえまちゃんは、葉っぱをととても愛おしそうに扱い、優しく触れていました。

えま 1歳3ヶ月





この探究活動は10月に始まり、今も続いています。

ひかりと仲良しになった子どもたちは、様々な場所にひかりが現れることに気づいています。

鏡に反射したひかりが天井を照らしていることに気がついたロジェヤくんは昼ごはんを食べながら「あった!」「みて!」と天井を指差します。

ひかり・あかり

ライトテーブルを準備するとひかりと遊びたくて「早くやりたい!」と近寄る子どもたちの姿もあります。

先生たちは子どもの興味を読み取りながら、お部屋の環境を考え、素材を考え様々にセットアップしています。

子どもと大人のひかりの探究はまだまだ始まったばかりです。

先生がセットアップしたひかりの環境の中で、うたちゃんがふとひかりに目を止めて目と身体全身を開きます。

まるで何か大きな大きな発見をしたかのように。その後、かなちゃんに必死で身体全身で語りかけます。



言葉はないけれど、「ねえ!かなちゃん!」「すごいよ!」「すごいよ!」「ねえ、一緒にみようよ!」そんな風に一生懸命に自分の感動を大好きな友だちに共有しようとしているように感じました。

うた 1歳5ヶ月



玩具で遊んでいたじゅんくんの視線がミラーシートにふと止まります。自らハイハイして近づき、ミラーに両手をつきました。手をついた瞬間にミラーシートが歪み、じゅんくんの顔も歪みます。じゅんくんはミラーにつかまり立ちをして強くミラーを叩きます。叩いた反動で映るものが変化していくことを見てなのでしょう、じゅんくんは笑います。つたい歩きをしながら手の位置を微妙に変化させながら、何度も何度も叩いて全身を動かしていきます。

ふと後ろで見守っていた先生を見て「一緒にみ見ている?」「先生も面白いの?」というような表情をして、また夢中でミラーを叩きます。

じゅんくんは自分の動作で変化する自分の姿や風景をととてもよく観察しています。自分が映り込む世界をどのように見ているのでしょうか。

じゅん 7ヶ月